

2-4-6 モジュール

建築におけるモジュールとは、「空間や構成材の寸法を決めるための単位寸法または寸法体系」と定義され、プランニングの際に有効な手段として利用できます。

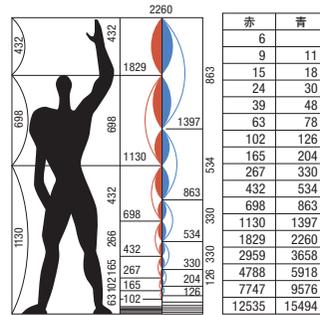
「近代建築の三大巨匠」の一人とされるフランスの建築家、ル・コルビュジェが考案した「モデュロール」は、人体寸法と黄金比を結び付けた寸法体系で、建築の視覚的側面、機能的側面、工業生産的側面の3つを考慮したものです。

日本では、建物空間を設計する際の基準になるモジュールには2種類あります。1つは、柱と柱の中心間隔を3尺=910mmとし、これを基準とした「尺モジュール」です。もう1つは、柱と柱の中心間隔を1000mm=1mとし、これを基準とした「メートルモジュール」です。

尺モジュールは木造軸組工法で使われ、鉄骨造や鉄筋コンクリート造などにはメートルモジュールが使われます。

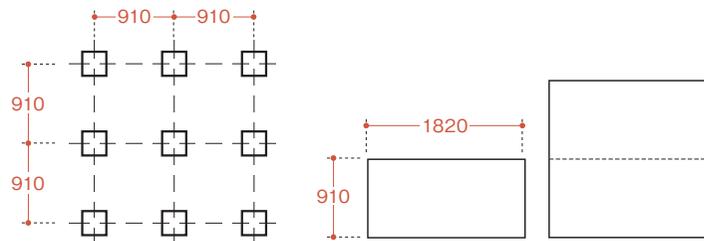
インテリアの場合、構成材やユニット式家具などの標準寸法を1つのモジュールとして利用します。

ル・コルビュジェの「モデュロール」



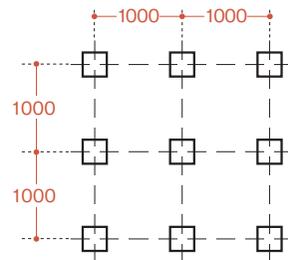
人間の身長と手を伸ばした寸法を、「黄金比」に合わせて分割・展開させ、これを基に作成した青と赤の二つの寸法列を、さらに大小両方向に展開させ、身体に関連するさまざまな寸法に結びつけたもの

尺モジュール (単位: mm)



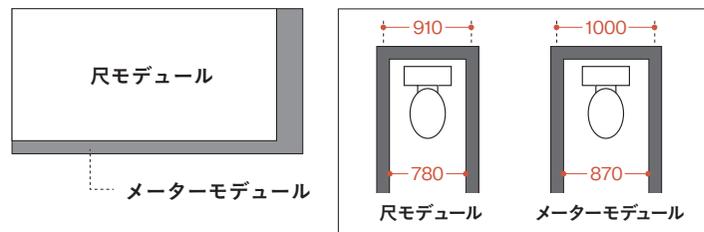
日本の住宅建築で最も多く使用されている尺モジュールは910mm (3尺) を基本寸法としている (1尺はおおよそ303mm)。また、6尺 (1820mm) は1間 (けん) で、1間×1間=1坪 (つば) と定義されている

メートルモジュール (単位: mm)



メートルモジュールは柱の中心間隔1000mmを基準寸法としている

尺モジュールとメートルモジュールとの違い (単位: mm)



メートルモジュールは、尺モジュールに比べて面積は20%大きくなる (左)。また、メートルモジュールでは廊下の幅やトイレなど、室内の有効幅が広がる (右)